

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国語表現Ⅰ（文章作法の基礎知識） Writing JapaneseⅠ		1年・2年	前期	月曜日・3時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
書簡文・挨拶文に関心のある人は「国語表現Ⅱ」、敬意表現と敬語に関心のある人は「コミュニケーションⅠ」の受講が望まれる。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
さらに読書の楽しさを深めたい人は「文学の世界Ⅰ」の受講が望まれる。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー 月・火・水・木の 10:40～16:00（授業時間 を除く）	電話番号・メールアドレス	
大室 精一	授業中に説明 します			授業中に指示します
授業の概要				
①昔話の学習（あらすじをメモする→印象深い場面をイラストで描く→昔話の特色の解説） ②テキストの学習（第一章「自分を磨こう」、第二章「会話の達人になろう」、第四章「実用文に慣れよう」を講義する。 ③演習問題（毎時間「自己PR」「賛否両論の立場で論述」「個性的な年賀状作成」等の別テーマで書く。） ④漢字練習・国語常識（漢字は「読み」「難読語」等を扱い、国語常識では「四字熟語」「故事成語」等を扱う。）				
授業の到達目標				
①昔話の学習（昔話の理解が深まり、その特色を文章やイラストで表現する力を身に付けることができるようにする。 ②テキストの学習（就職に役立つ「会話力」「履歴書」「ビジネス文書」の基本を身に付けることができるようにする。） ③演習問題（授業内容に示す様々なテーマによる活動を通して、文章による表現能力を高めることができるようにする。） ④漢字練習・国語常識（社会人に必要な常用漢字の力と国語常識を身に付けることができるようにする。）				
授業の方法				
①講義が中心になるが、一部に演習形式（自己PR・ディスカッション等）を含む。 ②毎時間プリントによる学習であり、表面は「昔話・テキスト関連・国語常識」、裏面は「漢字練習」である。 ③プリントの最後に「本日の授業で考えたこと」を記入して、学習内容のポイントを確認する。同時に質問も記入する。				
学習の成果				
この授業を履修すると、あなたは ①昔話の理解が深まり、その昔話の印象深いシーンを、文章とイラストで表現する力を身に付けることができる。 ②職業人としての「会話力」「ビジネス文書」等の知識を深め、「電話」「敬語」等の基本を身に付けることができる。 ③様々なテーマによる表現活動の体験を通して、表現能力を高めることができる。 ④社会人として必要な常用漢字の力と、様々な国語常識を身に付けることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス（勉強の心構え・講義計画・プリント・課題・成績評価等について）			
第2回目	テキスト第一章「自分を磨こう」 演習→「自己PR」のテーマで短文を書く 昔話の世界「猿と蟹」 国語常識			
第3回目	テキスト第一章「家族と会話せよ」 演習→「自己PR」検討 昔話の世界「三匹の子豚」 国語常識			
第4回目	テキスト第二章「会話の達人になろう」 演習→「賛否両論の立場」で論述 昔話の世界「おむすびころりん」 国語常識			
第5回目	テキスト第二章「社会人としての会話」 演習→「賛否両論」検討 昔話の世界「花咲か爺さん」 国語常識			
第6回目	テキスト第二章「電話を使いこなす」 演習→「コボちゃん」の四コマ目を想像 昔話の世界「裸の王様」 国語常識			

第7回目	テキスト第二章「メモは正確に」 国語常識	演習→「コボちゃん」検討	昔話の世界「鴨とりごんべえ」
第8回目	テキスト第二章「スピーチも覚えよう」 国語常識	演習→「詩歌のイメージ」を絵で表現	昔話の世界「かちかち山」
第9回目	テキスト第四章「実用文に慣れよう」 国語常識	演習→「詩歌のイメージ」検討	昔話の世界「舌切り雀」
第10回目	テキスト第四章「葉書にも慣れよう」 国語常識	演習→「ラブレター」を書く練習 ＊レポート「私の人生を変えた一冊の本」提出	昔話の世界「わらしべ長者」
第11回目	テキスト第四章「往復ハガキを使う」 国語常識	演習→「ラブレター」検討	昔話の世界「桃太郎」
第12回目	テキスト第四章「年賀ハガキを活用する」 国語常識	演習→個性的な「年賀状」作成	昔話の世界「醜いあひろの子」
第13回目	テキスト第四章「履歴書を覚えよう」 国語常識	演習→「年賀状」検討	昔話の世界「一休さん」
第14回目	テキスト第四章「ビジネス文書」 国語常識	演習→「私の人生を変えた一冊の本」紹介	昔話の世界「浦島太郎」
第15回目	全体のまとめ・定期試験・解説 本授業の「学習の成果」確認アンケート実施 課題「私の人生を変えた一冊の本」紹介		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	45%	毎時間プリントを配布し、授業後に回収して、授業への参加態度を記入状況により評価する。 45点満点：毎時間のプリントを3点満点で評価（優→3点、良→2点、可→1点）×15＝15～45点	
レポート	15%	「私の人生を変えた一冊の本」の課題の、表現力と自己分析の深さを記入状況により評価する。15点満点：課題の提出点が10点、レポートの完成度をみて1～5点を加える。	
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験	40%	大テーマによる論述問題(2問)で10点、授業全体から短答式の設問(15問)で30点の定期試験。 40点満点：論述問題は記入してあれば5点、完成度をみて1～5点を加える。短答式は1問2点となる。	
発表内容（態度含む）			
その他			
教科書と参考図書			
教科書：『就職に役立つ日本語表現法』（田上貞一郎著・萌文書林・1680円） 参考書・参考資料：授業の中で辞書類を多数紹介するが、もちろん購入の必要はない。			
履修上の心得・ルール			
毎回の授業でプリントを配布し回収して添削・評価を行うので、欠席した場合には「オフィスアワー」で補講を受ける。			